



東京日々新聞

九百九三号



農業休暇
 群衆若き男女
 の遊戯るい柳村の繁習
 の中不淫婦と雪と持みせど
 鏡の名は似以浅黒き雲取
 峯は焼炭の烟と薫る体るる中山茶
 も出花の色盛此薔薇と私通ぬる
 は又青梅より来りたる木屋某と
 交通猪追小屋の密會の隙と好せし鏡
 矢流の向妬と憤り一夜九太と提舞て
 山持するの木屋某と竹藪せし
 發路と大宮の區へ物引つ
 裁判と經つ餘罪と處せり
 是よりか雪の淡く
 消し命ぞ

轉々堂
略記



金足屋

萬齋
芳樂
幾

